覚勝寺十八日報謝講への門主の御消息

浄土真宗に帰依する私たちは、宗祖親鸞聖人の教えによって、本願念仏の法を信奉し、阿弥陀如来のお救いにあずかって、浄土への人生を力強く歩ませていただくものであります。

ひるがえって、私たちの現実のすがたを顧みますとき、ともすれば大切なご法義をおろそかにし、日々の生活実践も、怠惰に流れていないとは言えません。

現代社会を見つめますと、科学の驚くべき進歩にともない、人々はその知性を唯一の依り所とし、しかも物質文明に心を奪われて、いたずらに我欲のみを追求しています。その結果、あたたかい人間関係は次第に失われ、家庭は崩壊に瀕し、社会はいよいよすさみ、世をあげてその帰趨を知らないという悲しむべき有様であります。

このような現実を真に救い得る道は、阿弥陀如来の広大な智慧と慈悲に基づく本願のみ教えを仰いで、真剣に努力することのほかにはありません。

阿弥陀如来は、この苦しみ悩むすべての者に、本願成就のみ名を示して、救いをよびかけていてくださるのであります。そして、そのよびかけが私の心に届いたとき、現生に不退の益を得て、仏となるべき身に定められるのであります。その上はお念仏とともに、仏法を依り所とする報謝の生活に精進させていただき、四海の内みな兄弟とするうるわしい世界を実現するよう、努めねばなりません。

それが如来の恩徳に報いたてまつり、聖人の鴻恩に謝するゆえんであります。

覚勝寺十八日報謝講は、蓮如宗主のご教化によって創設されて以来、今に至るまで連綿として、ご法義の相続と本山護持のために、盛んな活動を続けられた輝かしい伝統を持つ講社であります。このたびの報謝講の勝縁を機として講員の方々が、いよいよ聞法に励み、自信教人信のみ教えに従い、念仏の同朋の輪

を広め、現代社会において、よく念仏者の本領を発揮されますよう、心から期待いたすものであります。

昭和五十四年十月四日

龍谷門主　釈　即　如

覚勝寺十八日報謝講の方々へ